



Hiroshima City University Language Center

広島市立大学語学センター
Newsletter No.24 (2005.12.28)



新語学センターが遂に完成！

充実した機能と落ち着いた学習環境

昨年度に引き続き、今年度の夏期休暇中に、408教室、自習室、事務室の機器更新が行われました。各教室に五大陸のテーマをつけ、芸術学部の吉田幸弘助教授にもコーディネートのご協力をいただいたセンターが、遂に完成しました。

目次：

新語学センターが遂に完成	1
裏切りトンネル訳話	2
外国語でブログ	3
コラム：国際 山本先生	3
西京大学からの留学生	4

音読練習に配慮

今回の機器更新では、408教室と自習室の間の壁を移動させ、408教室が60ブースから40ブースに、自習室が45ブースから80ブースになり、教室サイズが変更されました。また、教室内の全てのパソコンがWindowsになり、パソコン環境が統一されています。学生使用時の認証は全て情報処理センターサーバで行われています。

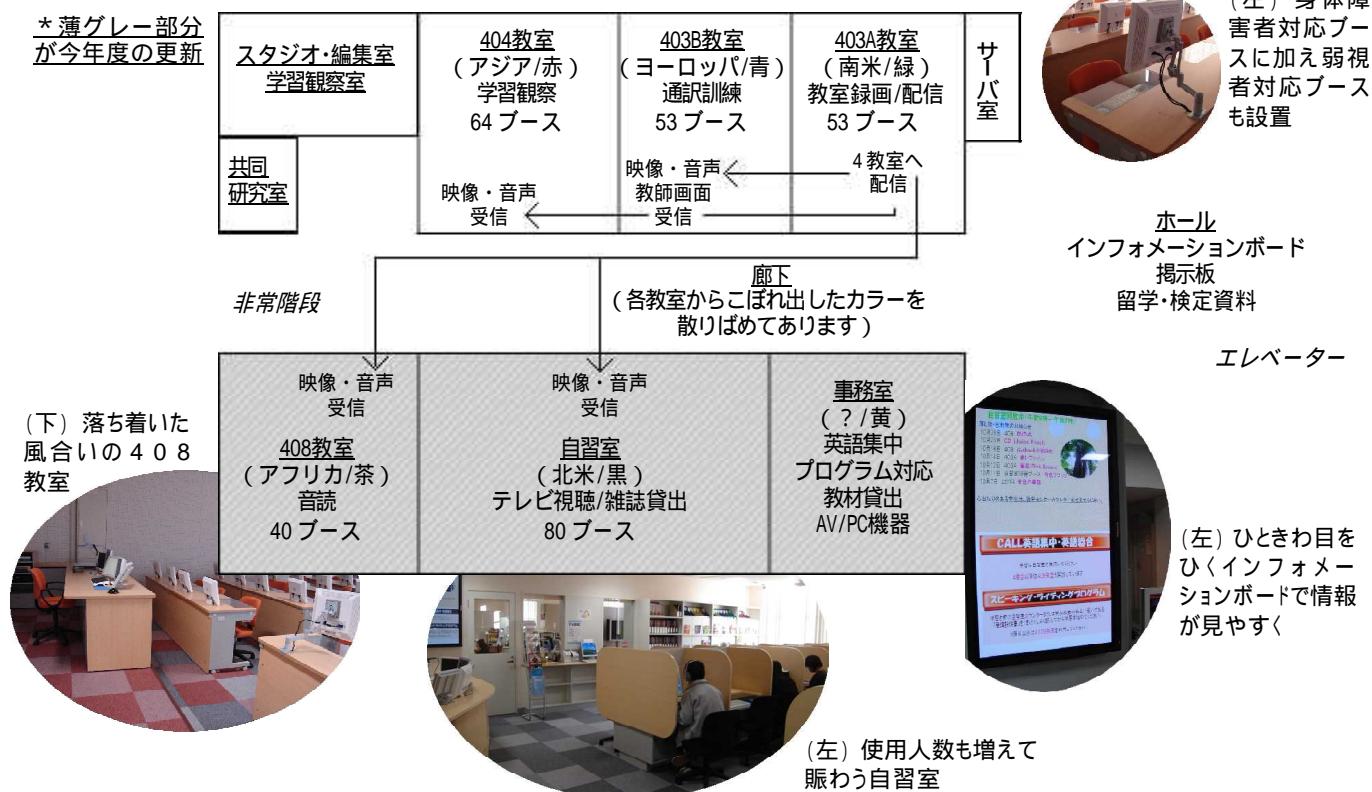
小さくなったり408教室は、音読訓練ができるように部屋が消音壁になっています。今年度から開始された、インテンシブ英語集中講座のライティング・スピーキングプログラムなどに利用されています。自習室は消音壁ではないものの、ブースの境を高くして、音読練習に配慮しています。後期が始まると、新センターに来た学生から歓声があがっていました。

自習教材は完全デジタル化

自習室学生ブースの変更に伴い、自習用に使用できる視聴覚教材が、ビデオやカセットのようなアナログ教材からDVDやCD等のデジタル教材へ完全に移行しました。また、各ブースでは、これまでのCNNに加え、新たに海外6か国の衛星放送が自由に視聴できるようになりました。（テレビ局は、p.3参照）

自習室内の雑誌架は最新号を前面に陳列できるわかりやすいものになり、ホールと自習室内にあるインフォメーションボードによって、必要な情報もより伝わり易くなりました。カウンター窓口も英語集中プログラムと教材貸出やサポートの2つに分け、学生の利便性が向上しています。より様々な自習が可能になって新自習室はとても活気づいています。

語学センターフロア図



裏切りトンネル訳話 02

機械翻訳で済むようでは

“日本語における主語の省略”ということがある。「何時?」「好き!」と言うのに、英語の場合、主語やさらに目的語を加えねば文章が成り立たない。主語がなくていいのが日本語の特徴である。

駅のホームのアナウンスは「あぶないですから、白線の内側にお立ちください」とくりかえす。主語は略されている。と、ここで僕は平和公園の有名な碑文を思い出す。「過ちは繰り返しませぬから」。国内の論議以上に、外国人にとって奇異な印象を与える文であったのだ。

「私は遠くに一隻の船を見ることができる」とくらい正確な意志的な言い方はしない。普通、「遠くに船が見える」である。誰が、何隻のは読む人の解釈にまかされる。

「決まってしまいましたので」と自分の結婚のことを告げる女子卒業生がいる。もとの担当教員が誰が決めたの?せっかくの就職先はどうするの?と主体の意志を問うても、「もう、決まってしまいましたので」とくりかえすばかりなんだ。彼女は日本語の優れた機能を上手に活用しているわけか。

大学の「翻訳研究」の授業から生まれた本が、北條文緒『翻訳と異文化 原作との<くずれ>が語るもの』(みすず書房04年)。この本の実際の内容は村上春樹、吉本ばななをはじめとする日本の文芸作品との英訳本の、細部の<くずれ>の検証であるわけだが、原文と翻訳を著者の解説つきで照合するだけで興味深い。

「英訳者たちは無意識的あるいは意識的に英語を母語とする読者のために、原作を修正している」ことや、「日本文学にあふれている『悲しみ』あるいは『物悲しさ』の受け皿が英語にはないらしいこと」などが理解できる。

それに、著者の意図がどうであれ、一種、名作アンソロジーの役を果たし、未読未知の作品をうかがう機縁ともなりうる。次は一太刀浴びせる秀歌ではないか。

砥ぎてもつ厨刀青き水無月や何わざの果て妻(め)
とはよばるる 馬場あき子

誰がそう呼んできたか。呼ぶ主体として何ものを想定しているのか。しかも、つまでなく「め」と呼ぶのだ。

受動態にすればとりあえず主語を私にして文章は成立する。「ああ!六月。このような仕事のために私は妻と呼ばれている」。<くずれ>があるとしても意味はとある英訳は可能だ。だが動作主体を深く切りつける切っ先は英訳では隠ぺいされ、凡庸な詠歎として宙に

浮く。

翻訳についてはまことに、いろいろのことがいえる。つまるところ、言語のみならず文化の全般のほぼあらゆることが翻訳研究の分析対象なのである。翻訳は単に複数文化間の通路や交渉のツールではなく、じつは翻訳自体を文化の重要で不可欠の実体部分と考えるべきであろう。

「工業英語」という雑誌を刊行し「コビルド英語辞典」翻訳編集に従事した藤岡啓介という人の『翻訳は文化である』(丸善ライブラリー00年)に「人の領域個性のない文章は文章ではない」なる節がある。そこでは幸田文『流れる』(新潮文庫)の冒頭の文章が引かれる。

「このうちに相違ないが、どこからはいっていいか、勝手口がなかった」。

これをこのまま、「機械翻訳」システムで訳すと(かつては「自動翻訳」と称した)当然、不明の文になるそうだ。主語?複数、単数?挿入句?疑問文? 機械翻訳の能力を考慮し、なだめなだめ(?)幾度も書き換え最終的に次の文を提供して、ようやく英文らしい文になったそうである。

「私はある家を訪問した。私が訪問した家は、この家のはずだった。しかし、私はこの家の入り口、すなわち私が出入りすべき勝手口を見つけることができなかつた。」

うむ、これでは文章家の文章とは言えない。「機械」的には省略文といつてもいいような原文にあった感情(たとえば、ためらい)がすっぽり落ちている。「機械翻訳できる文章を書くようでは、作家ではない」と著者はいう。マニュアルは機械翻訳できるべきであってよい。だが、ほんとうの教科書は個人の個性的な述作でなければならないのだ。

このことは翻訳とは思えないような翻訳を成すことが翻訳の目標ではないことに通ずる。

北條文緒もいう。「あまりに流麗な訳文を読むとだまされているような気になる」。「異言語を何とか自国の言葉に乗せようとする、そのさいに起る摩擦がどこかに痕跡を残してこそ、翻訳ではないか」。

池内紀が言ったそうだ。「シェークスピアは理想的な翻訳家だ」(翻訳ネタの最多利用創作家なのだ)。

英語国民は言うだろう。日本人はいいなあ、ハムレットを40種も楽しめる。俺達はひとりっきりだぜ。



Life's but a walking shadow,
生命のもの、しかし歩いている影。(Y)
人にもかかわらず、歩いている影。(E)
生命のだが歩く影。(I)

(芸国斎王維微意)

外国語でブログをしてみる！

語学センター・語学教務員 堀本 真由美

コメントを励みに継続



* blog作成画面は母国語対応

ブログというと報道で目や耳にすることが多く、ネガティブなイメージもつきまといますが、外国語のライティングの腕だめしには楽しく役立ったりします。海外の英語学校でも大抵、日記を書くということをさせられるのですが、一人きりで継続するのは孤独で難しい作業です。そこで、海外の検索サイトで“blog”で検索してヒットした www.blogger.com で、英語で書くためのブログを作成してみました。多言語対応なので、英語以外の言語で書くことも可能です。外国語で投稿を続けるというのも日記と同様になかなか困難ではあるのですが、いろいろな国の人からのコメントをもらうことが期待できます。

実際、なかなか励みになるコメントがもらったりするもので、継続の支えになったりします。中には、中級英語のクラスでブログを作成しているという日本人学生が、英語で書いてくれたコメントもありました。

イギリス人からの予期せぬ招待

しかし、やはり自分が投稿を止めてしまうと、コメントも来なくなります。私もしばらくブログから遠のいていたのですが、ある日、見知らぬ人物からブログについてのメールが届きました。見る

(p.1 関連)	自習室で視聴できる 海外TV局一覧
英語	CNN
フランス語	TV5 Asie
中国語	CBN
ドイツ語	DW-TV
スペイン語	TVE
アラビア語	Alalam News
ハングル	KBS1

と、いつの間にかその人物のブログチームのメンバーにされていたようです。blogger の場合は、チームメンバーを作って登録した人物だけにそのブログに記事を投稿させることができます。という仕組みがあります。私を招待してくれたのはイギリス人女性で、チームメンバーは現在のところ 19 名。ほとんど全員がイギリス人で、社会や政治に関する辛口の投稿が盛んです。自分だけのブログで書いていた時とは状況が変わり、他のメンバーの大量の投稿を読むこと、情け容赦ないネイティブ環境のブログに勇気を出して投稿すること、それまでとは違った新しい負荷を、ある意味楽しんでいます。自分で進んでチームを作っている國の人に参加してもらったり、仲間でのチームブログというのもおもしろいかもしれません。



* 招待されたサイトのContributors にずらりと名前が

ミニコラム 外国語に想う【19】

おとなしい学生をしゃべらせたのは？

国際学部長・教授
山本 雅

国際学部生 15 名がケント州立大学（オハイオ州）の短期英語研修に参加したことがあった。私は引率者として同行した。今から 6 年くらい前のことである。

私たちは寮に滞在していたのだが、一人の国際学部生が寮内でポップコーンを煎り始めたところ、煙が出て火災報知機が鳴り出し、消防車や警察のパトカーがくるやらで大騒ぎとなつた。学生たちはその場で警察に尋問されていた。私はこれも学生たちの勉強のうちと思い、知らぬ顔をして傍観していた。

学生たちは皆蒼い顔をして、大男の警察官にたいして身振り手振りを交えて、必死で弁明していた。2 週間の短期講習会であったが、あの時ほど、学生たちが必死になって英語を話そうとしていたのを見たことはない。

煙を出した学生も、側にいた学生たちも、警察官相手によくしゃべっていた。普段はおとなしい国際学部生も切羽詰まると、結構しゃべるのだと感心した。

* 前回のNewsletter No.23 で「外国語に想う【17】」と表記されていました。正しくは「外国語に想う【18】」です。

韓国 西京大学留学生が語る市大

語学センター・語学教務員 伊達 美和子

西京大学との交換留学 始まる

韓国、西京大学との交換留学が今年度10月から始まりました。市立大学からは、現在3名の学生が派遣されており、西京大学からも3名の学生が市立大学に留学しています。市立大学では初の韓国の大学との交流。これから明るい日韓関係を築くためには、市立大と西京大との学生の交流は、大きなカギとなるかもしれません。

今回は、西京大学から留学中の3名の学生に、市立大学での学生生活に関するインタビューをしました。“最後に一言”では、留学する上での心構えから、日韓関係に至る幅広い意見を聞くことができました。留学したいと考えている人には、実際の留学生の話はいい刺激になるのではないかでしょうか。

留学生紹介 & インタビュー



ホン ユソク

(芸術学部 デザイン工芸学科 3年)

1 受講科目 英会話・英語総合・コンピューターアート・多国籍企業論・実習

2 市大の授業 “テーマ制作への取り組み”

市大の実習、テーマ制作では、かなり自由に自分の発想を作品にできるのでやりがいがあります。その分、難しいですけど。西京大学では、決められた課題をやるだけだったので、ここでは自分のオリジナルな作品を制作できて、有意義な時間を過ごせています。制作テーマは「共生」です。

3 最後に一言

留学は、言葉の問題以上に、自分が何をやりたいかをはっきり決めてからするべきだと思います。限られた時間で、新しく出会う学生、先生、大学、全てに全力投球して、全て吸収しないともったいないですからね。

掲示板

視察報告

機器更新工事中から視察が多数あり、特に市民やPTAの方々の参加が目立ちました。

8/10 Open Campus

9/5 北京大学 教員1名

9/8 広島県立大学 教員8名

9/13 Aシティ ナイスクラブ 30名

9/21 進路指導説明会

10/4 呉宮原高校 PTA 45名

10/5 祇園北高校 PTA 30名

10/13 西広島ローラークラブ 60名

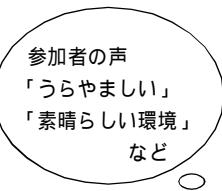
10/19 美鈴が丘高校 PTA 30名

10/20 呉市立吳高校1年生 30名

10/24 安芸府中高校 PTA 20名

11/2 広島大学 職員1名

11/18 安佐南区民 19名



安佐南区民の視察では
70代、80代の参加者も。



チエ・ウンジン

(国際学部 国際学科 経済系列 3年)

1 受講科目 國際貿易論・國際金融論・マーケティング論II・ひろしま論・多国籍企業論・比較企業論・國際關係史(日本)・CALL・専門ゼミ

2 市大生の印象

市大の学生は、自分がなぜ大学で勉強をしているのかを考えて積極的に行動しているという印象を受けています。この学生は、忙しくても物事を諦めないし、独立心が強いと感じています。それに、いつも笑顔で、キャンパスでも声をかけてくれてやさしいですね。

3 最後に一言

国籍は重要じゃない。人はみな同じ。年齢や性別に関係なく、人類は協力できると思う。留学してから、そのように世界観が変わりました。



シン ジュヒ

(国際学部 国際学科 文化系列 3年)

1 受講科目 現代日本経済論・多国籍企業論・國際關係史(韓国)・言語比較論・國際關係史(日本)・比較企業論・日本生活史

2 市大の授業

韓国では、日本語学科だったので、市大で國際關係を習うのはとても楽しいです。どんどん興味が沸いてきました。市大は、先生も学生も熱心で、いい環境で勉強できていると思っています。これからも、新しいことを学んでいきたいです。

3 最後に一言

日韓の歴史は暗い側面もあるけれど、日本人が悪いのではない。お互いの文化を理解して、私たちの世代が日韓関係を変えていかなくてはいけないです。

第2弾！第2外国語映画上映会開催中

お待たせしました！

昨年度に引き続き、語学センターでは12月12日から第2外国語の映画上映会を開催しています。1月20日までの期間中、ハングル・アラビア語・フランス語・中国語の映画を上映予定。

普段ではなかなか鑑賞する機会の少ない第2外国語映画。これを機会に新しい言語に出会ってみては。

上映作品、日程については語学センターホール・国際学部棟などに掲示しています。

発行日 2005年12月28日

発行 広島市立大学語学センター

〒731-3194

広島市安佐南区大塚東3-4-1

編集 堀本真由美

伊達美和子(内線:6410)

Phone (082)830-1509

Fax (082)830-1794

E-mail lang@intl.hiroshima-cu.ac.jp

ホームページ

<http://call.lang.hiroshima-cu.ac.jp/lang/index.html>